令和２年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会
胃がん部会　概要

１　日　時：令和２年１２月２５日(金)　13:30～15:00

２　場　所：岐阜県シンクタンク庁舎　１－１会議室

３　出席者：

	氏名	所属
委　員	吉田　和弘	岐阜大学大学院医学系研究科　腫瘍外科学分野教授
	後藤　裕夫	岐阜赤十字病院放射線科部長
	鳥澤　英紀	岐阜県医師会　常務理事
	吉川　典子	ぎふ綜合健診センター　診療放射線技師
	迫口　理絵	市町村保健活動推進協議会保健師部会（輪之内町）
オブザーバー	氏平　高敏	飛騨保健所　所長
事務局	赤尾　典子	保健医療課長兼健康推進室長
	森　稚加子	主幹兼がん対策係長
	中島　早映	技術主査
	上口　大輝	主事

４　内　容：

報告：１　令和元年度岐阜県生活習慣病検診等管理指導審議会胃がん部会議事

議事：２　岐阜県のがんの現状等

・岐阜県の胃がん死亡率は、特に女性において全国に比べ高い傾向が続いている。

・県内がん登録の結果から、岐阜県は全国に比べて胃がんステージⅢ～Ⅳ期で発見される者の割合が高いことが分かる。より早い段階での発見が必要であり、検診以外にも他科受診時の異常発見に努めていただく等、広く胃がんに関する啓発を行う必要がある。

３　市町村が実施する胃がん検診の精度管理について

（１）正しいがん検診の実施

・新型コロナウイルス感染症の流行により、今年度は検診の定員を減らす等の措置が取られた。また、検診控えががん発見の遅れにつながる影響が今後懸念される。検診現場でのクラスターは今のところ確認されておらず、安全性を PR して検診受診の必要性を継続して訴えていく必要がある。

・胃内視鏡検診を実施する市町村は増加。H28 年度のデータでは内視鏡検診での要精検率が全国で一番高値であり、精度管理上の課題が考えられたが、現在は二重読影等指針に基づく体制を整備する市町村も増えており、プロセス指標も改善傾向にある。

・指針に基づかないABC検診・ヘリコバクターピロリ抗体検査をリスク検診として実施している市町村がある。行政の実施する対策型検診としては推奨されていない旨について再度通知し、指導を行うこと。

（２）がん検診マネジメント

・要精検率のバラツキについて、要因を検討する必要がある。高すぎるのは偽陽性の可能性が考えられるが、低過ぎるのも問題と捉えるべきである。
要精検と判定された者の結果把握に努め、真にがんを疑う場合に要精検とするように検診を行う医師の理解を求めていく必要がある。

（３）がん検診の受診率向上対策

・ポピュレーションアプローチだけでなく、他疾患治療中のかかりつけ医でのスクリーニングもがん発見には有効な手段である。医師会等との連携を強化していくと良い。

・今年度から開始した胃がん対策強化事業費補助金の取組み及び成果について、今後確認していく。

⇒　上記協議結果について、市町村及び検診機関への通知を行い、フィードバックする。